

近く右に三保の松原を望み、天羽衣を想起し、左に奥津の清見寺を眺め、遠くは田子の浦邊の白波の美しきと、八咫の芙蓉峰の秀靈とを賞し、三保の松原に遊びて清水港に宿し、翌日は江尻奥津を経て清見寺に到り、蒲原を過ぎて岩淵に宿り、歩いて原に向ひて左富士の奇勝を探るもあり、瀛車に搭じて坐ら風光の明媚を愛づるもありて、人さまざまに旅行を了りて、十七日午後八時十分新橋著にて歸京したり。

## 関連事項

### ① 京都市立絵画専門学校設立

明治四十二年一月、京都市立美術工芸学校評議会は絵画専門学校設立を文部大臣に申請し、その結果、同年四月、京都市立絵画専門学校が設立された。当初、生徒数は一五〇名、修業年限は予科が二年、本科が三年、研究科が二年で美術工芸学校（吉田町）の校舎の一部を仮校舎として授業を開始した。はじめは大野盛郎が校長事務取扱をつとめ、四十三年三月より松本亦太郎が校長（美術工芸学校長兼任）に就任。竹内栖鳳、菊地芳文、谷口香嶠、山元春拳、西山翠嶂、合田一峰、徳田隣斎、菊地契月、庄田鶴友、辻華春らが実習の指導にあたり、中井宗太郎は美術史を、池辺義象は国文学を、江馬務は風俗史を教えた。明治四十四年三月には入江波光、小野竹喬、榊原雨村、榊原紫蜂、土田麦僊、星野空外、松宮芳年、村上華岳ら八名が卒業する（野長瀬晩花は中退）。

### ② 「生徒心得」改正

明治四十二年四月、「生徒心得」（第一条、第二十一条）に次の二ヶ条が付け加えられた。

第廿二 生徒ニシテ本校内ニ公告貼札等ヲ爲サントスルトキハ豫メ本校ノ許可ヲ得テ後チ指定ノ場所ニ限リ之ヲ揭示スルコトヲ得  
第廿三 家族若クハ同居人中又ハ住所ノ近傍ニ於テ激症傳染病ニ罹リタルモノアルトキハ速ニ其旨ヲ本校ニ届出ツヘシ

（『東京美術学校一覽』從明治四十三年至明治四十四年）

### ③ 福地復一（天香）死去

『東京美術学校校友会月報』第八卷第一号の「芸苑彙報」に次のように記された。

○福地復一氏逝く 圖案家として斯界に功勞ありし福地復一氏は、昨年来胃癌を患ひ、大學病院に入りて療養中なりしが、醫藥効なく「明治四十二年」七月廿二日午前三時芝高輪北町の自宅にて逝去せり。氏は伊勢國宇治山田の人にして、同縣師範學校卒業後、上京して三田芝英語學校に入り、明治二十二年伊勢神苑會の依囑にて、初めて歴史博物館の設計に従事したるを圖案界に身を投ずるの動機として、其後博物館、東京美術學校等に奉職し、又内外博覽會、共進會等の設計及び審査に従事して、三十年の巴里博覽會の際には、審査員として同地に遊び、歸朝後は日本圖案會を設立して専ら意匠圖案界に貢獻する傍ら、美音會を起して歌舞